

令和 8 年度上京区民まちづくり会議「上京！MOW」 実施報告書

日時： 令和 8 年 7 月 23 日(木)18:00-20:00

会場： 上京区総合庁舎 4 階 大会議室



上京区役所では、文化、地域コミュニティ、環境共生、安心安全、地域産業活性化、福祉といった多様な視点からのまちづくりの推進に向け、地域にお住まいの方及び活動されている団体の皆様と幅広く意見交換を行うため、上京区民まちづくり会議「上京！MOW」を開催しています。

今年度は、47名の参加者が集い、7つのキーワードを設け8グループに分かれ、グループごとにそれぞれのキーワードに関する「気になること」「まちのお宝」を共有し合い、「まちの宝を活かして、課題解決のために誰とどのようなことができるだろうか」といった視点でアイデアを出し合いました。

グループ発表では、キーワードにまつわる個々の視点や提案だけでなく、「大学生と地域の接点をつくっていいこう」「盆踊りのように老若男女問わず楽しめる地域行事をしてみたい」など複数のグループで共通した意見も見られました。

「上京！MOW」で出会った人と話すことで、様々な気づきを得て、上京のまちをみんなで盛り上げていこう！という明るく前向きな雰囲気で意見交換は締めくくられました。

プログラム

- 18:00 開会挨拶 山口薫上京区長
18:03 上京！MOWの紹介
上京区民まちづくり活動支援事業「上京！MOW 部門」説明
「上京区まちづくり運営方針」の共有
18:13 ワークショップの目的や流れの共有
18:20 ワークショップ
＜キーワード＞
1 伝統文化・歴史
2 安心・安全（防犯、防災、交通安全）
3 地域福祉
4 子育て
5 多世代・多文化交流
6 居場所と出番
7 学び合いから生まれる交流
19:25 グループ発表
19:45 感想・気づきの共有
20:00 閉会



挨拶（山口区長）



会場の様子

意見交換

キーワード1 伝統文化・歴史



西陣や京都御所をはじめ、世界に通じる伝統的なまちの宝を共有しました。その他には、近年特に若い人たちなどは畳や床の間を知らずに過ごす世代も増えており、畳職人でなくとも、畳で暮らしてきた住民にも、こういった文化について若い人たちに伝えられることがたくさんあるので、その接点をうまく作ることができれば良いという話になりました。「縁結び神社」や「パワースポット」「イルミネーション」など若い世代にとって興味・関心を持つ事柄をキーワードにまちを知るイベントを行い、京町家で食事を共にすることなどができたら、若者にとっても自然な形で伝統文化に触れる機会になるだろうとの意見も出ました。

＜意見の一例＞

- 上京区の歴史や観光資源を活かすために、学生と住民でコラボしたい。
- 伝統文化は継承者がいなくなれば途絶えてしまうので、なんとかする必要がある。
- 京町家、出水通の七不思議などの伝承、レトロ喫茶店など若者にも響く文化の入り口を示せると良い。

キーワード2 安心・安全(防犯、防災、交通安全)



防災や交通マナーの話題から、地域活動の担い手不足が課題に挙げられ、継続的に地域活動に参加する同志社大学のサークル Shinmachi Activate Project(愛称 SAP(サップ))による事例を聞き、学生等若者が地域活動の担い手になるきっかけを考えました。その結果、活動する人自身が楽しむことで、その姿を見た人が仲間になっていくという、学生に限らず大人にも子どもにも共通するプロセスに気づきました。グループでの活発な意見交換を通じて有意義な情報が得られ、互いの思いを知れたことで、今後の活動の連携につながる流れができていました。

<意見の一例>

- 担い手不足が課題ではあるが、若い人が消防団や自主防災会に入っている学区もある。「いいかげん」は「良い加減」ということで参加しやすいのではないかな。
- 地域のつながりの希薄化が防災や福祉に影響する。上京区の歴史と住民の思いを持続発展させることができるかが将来に向けて大切なことである。
- 楽しい地域活動の具体例として、上京区の各学区が協力する「大盆踊り大会」の開催を目指してはどうか。

キーワード3 地域福祉



子育て中のお母さんが相談できる場所や、色々な不安を抱えている人たちの話を聞ける場について話題になりました。その中で堀川商店街にある knocks! horikawa(ノックス堀川)における子どもの自主性を育てる活動や、お母さんが本をゆっくり読めるように、スタッフが子どもを見守る「みんなの図書館」が紹介されました。お母さんが気軽に訪ねられる場所が点在していれば良いといった意見や、近年増加している空き家の管理を兼ねて居場所として活用できる方法を考えられればなどの提案がありました。

<意見の一例>

- 子ども食堂のような、食事をともにする場に「親子歓迎デー」もあればありがたいのではないかな。
- 場所や居場所はみんなの共通の話題であり、課題認識があるということが分かった。
- 居場所として空き家のほか、商店街の空きスペースを活用できないかな。
- 取組を広げるための広報や、日々区内で活動されている場を皆さんにどのように知ってもらえるかが大切。

キーワード4 子育て



子ども食堂や児童館、子育て世代向けマルシェ企画やボランティア活動を行う人が集まりました。子育て世代が地域情報を収集するに当たっては、情報をまとめたインスタ等の SNS だけでなく、まちなかに貼ってあるチラシや行政機関での配架チラシ、回覧板等のアナログな手段を併用することも有効だとの考えが共有されました。また具体的に流しそうめんをやりたいが設備と人手が足りないという声に対して他団体から協力の意向があった他、公園で駄菓子販売を通じた子どもの居場所づくりを企画する大学生から、他団体とコラボした新しい手法のアイデアが出され、団体同士の今後の連携した活動・発展への期待が生まれました。

<意見の一例>

- 子育て世代の情報収集は SNS メインで情報が偏り、孤立化しやすい傾向がある。一方、地域の子育てイベント・居場所は多々あるのに情報が届きにくい。
- 自分たちだけでも一定できることはあっても、他団体との連携方法等を考え、いかに他の団体等とつながっていくかが大事。
- 上京区には多様な活動や団体、大学があり、団体同士のつながりを生む場があることが何よりも大切。

キーワード5 多世代・多文化交流

5-1テーブル



昔からの地域住民や地域に根差した事業者、地域イベントの主催者、大学生といった、幅広いメンバーで話し合いました。上京区内でも外国籍住民によるコミュニティが見られるものの、ほとんど接点がないため、まずはお互い交流する場が必要であり、地域のお祭りなどに参加してもらうとともに、ゴミの出し方や災害時の対応など、地域のルールを明文化して伝えることも大事だという話が出ました。また、大学生と地域との接点も必要という意見がありました。

<意見の一例>

- 地域のお祭りに外国籍住民に出店してもらい、お国の料理を振舞ってもらったり、お国の文化を伝えてもらってはどうか。
- 以前、大学生を対象とした住民によるまちあるきツアーを開催したが、外国人版のツアーも実施できればいいのではないかな。
- 大学生は下宿先よりもバイト先のほうが地域と接点があるのではないかな。地域商店でアルバイトができればいいのではないかな。

5-2テーブル



上京では伝統産業や伝統文化の宝が多く、年配者が持つ技術や経験もまちの宝であることから、こういった方々の協力を得て、子どもたちに路地を探索してもらうようなイベントを開いたら、古民家の価値や文化が伝えられるのでは、というアイデアが出ました。また、他府県出身の大学生にとって、地蔵盆は新鮮な非日常体験となり得るので、大学生と高齢者が交わる機会を持てば、地蔵盆という伝統文化をつなぐ可能性も出てくるのでは、という提案もありました。多文化交流に関しては、食など、言語を越えてつながる機会を活かそうという意見が交わされました。

<意見の一例>

- 障がいのある方に対して近隣住民ができるサポートを広げるにはどうしたら良いだろうか。
- 年配者の熟練技術はまちの宝で、マニュアル化しきれない部分は、直接次世代に引き継ぐ必要がある。人口減少社会では、日本人ではなく外国人が受け継ぐ候補になるかもしれない。
- 外国籍住民との交流に際して、喫茶店でその国の料理を食べる会を開いたら、相互理解と喫茶店文化の継承にもつながるのではないか。京菓子、お茶会も含めて「食」はつなぐ力がある。

キーワード6 居場所と出番



意見交換に先立ち、居場所とは、特定の場所や施設に限定されるものではなく、安心できる場であったり、通える場、誰かに会える場を指し、出番とは、一人ひとりが地域の中で役割を持ち、活躍できる機会だという認識を共有しました。

居場所と出番を考えるうえで、地域行事が多世代・多文化交流を生み出すきっかけにもなっており、具体的には、嘉楽学区での花火大会や、堀川まつり、盆踊りという地域行事は、子どもと地域をつなぐだけでなく、多様な人々が自然に交流できる場として大きな役割を果たしているといった話題になりました。

<意見の一例>

- ある団体では、役割表を作って、多くの人の出番を見つけることを心がけている。
- 子どもの居場所、中高生の居場所、現役世代の居場所、シニア世代の居場所など対象を挙げると、居場所は幅広い世代において求められている。子どもが来ると、30代～90代も結構集まる。
- 優しく接するだけでなく、礼儀や人との関わり方を率直に伝えてくれる地域の大人の存在が、地域において大切な存在であり、次の世代の子どもたちの成長につながると思う。

キーワード7 学び合いから生まれる交流



上京に長年暮らす中で感じる風景の変化や地域コミュニティの変容に関する話題で盛り上がりました。外国人コミュニティがきたり、マンションの増加に伴って地域のつながりが薄れる中で、地蔵盆をはじめとする地域行事をどのように継続させていくかという議論へと発展しました。大学生の力やお寺の存在、西陣界限での団結力など地域の良さを活かし、今後の地域行事では、例えばお寺で怪談をするなど、地域行事が若者にとっても面白いものとなるように大学生の発想を取り入れてみては、というアイデアが出されました。

<意見の一例>

- つながりを持ちたいと思っても、どのようにすればつながれるのか分からないのは課題だ。
- 地域のつながりが強まることで、地蔵盆の復活や地域活動の活性化にもつながるのではないかな。
- 居場所や人と人のつながりをマッピングし、地域内で共有していきたい。
- 高齢者や子どもたちが何を望んでいるのかを丁寧に聞き取り、その対話の場に大学生が加わることで、住民の意見を引き出したり、新しいアイデアを共に考えたりすることができるのではないかな。

意見交換後の気づき・感想

- 意見交換の場が定期的にあると嬉しいです！とても有意義な時間でした。
- 若い感性と行動力がこれからますます必要。場を設けることが必要。
- 話し合うことで面白い案が生まれる。楽しむことが大切！
- 意見交換を通じて、私たち学生の力の可能性は、自分が思っていたよりも大きいものだと感じました。新しいことにチャレンジしていきたいです。
- 自分が取り組んでいる活動を知ってもらえることができ、嬉しかったです。
- 交流スペースがもっと増えたらいいな！と思いました。
- 目指す方向性は同じなので、みんなの力を結集してより良い上京区を！
- 上京区は多様な活動や団体、大学があり、団体同士のつながりを生む「場」があることが何よりも「宝」。地域を盛り上げるエネルギーがすごい！
- 多文化交流は、楽しい側面もあり、災害対応にも役立つという気づきを得ました。
- 地域住民と外国人、学生がもっと交流できるイベントやオープンな場をこれからつくっていけるといいですね。
- 大学生にとっては、ボランティア活動だけではなく、アルバイトから始まる地域参加もありそう。
- 上京区で楽しく暮らしたいとみんなが真剣に考えていることが分かりました。その中に大人世代、子ども世代を含めての交流が考えられている幅の広さを感じました。
- 上京区民まちづくり活動支援事業で、昨年度採択された団体の報告会もあると良いなと思いました。
- 素敵な知恵を持つ高齢の方々がもっと「おせっかい」できる出番があるといいなと思います。
- 上京区で姿が見えにくい 30～40 代の現役世代のコミュニティが表面化すると面白くなると思います。